

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

人類が経験した産業革命の原点を考える 矢野 誠 (京都大学経済研究所特任教授)

- 18世紀以来、人類は少なくとも3回の産業革命を経験している。一般的に、産業革命は画期的な技術を開発した個人や企業との関連で語られる。第1次産業革命では1776年のジェームズ・ワットによる蒸気機関、第2次は1855年のヘンリー・ベッセマーによる鋼鉄製造転炉や、ヘンリー・フォードによる1913年のオートメーション、そして第3次では1981年の米IBMによるパーソナルコンピュータと、それぞれの産業革命をけん引した技術が思い出される。
- 産業革命が起きる条件は4つある。第1は、市場への自由参入への保証だ。参入障壁があれば、発明家(研究開発センター)には、障壁を乗り越えるための費用が発生する。それでは技術革新は抑制されてしまう。第2は、セクター内での自由な財・サービスの移動の保証だ。財・サービスの動きが妨げられれば、購買意欲も労働意欲も圧縮される。
- 第3は、技術開発ニーズ(希少性)に先導される経済の構築だ。「必要は発明の母」と言う。それが発明家個人にとどまらず、経済全体で実現されなくてはならない。第4は、人間一人ひとりの質的向上(生産性の向上)である。技術の希少性を高める大要因は、人口の増加と一人ひとりの生産性の高まりだ。つまり、一人ひとりの能力も質的に向上しなくてはならない。

(参考:「日経ビジネス」2023年5月22日号)

幹部への活きた言葉

それが人生というもの(それとは何か)

鎌田浩毅 (京都大学名誉教授)

- 現場と読書が一致して初めて人は変わる。それが私の実感です。教養を得ることも大事ですが、いま目の前の課題を解決するヒントを掴むこと。それには人や本との出逢いも関わってきます。普段からたくさんの本を読んだり、いろいろな人と出逢っていると、必要とした時に様々な教えを得られるものです。
- 人は努力せずとも、出逢いで一気に変わるものです。人生を変える本、専門分野、就職先、そして結婚も同じです。学生たちにも言い続けてきたことですが、出逢いがなくても焦る必要はありません。何もかも出逢う時には必ず出逢い、出逢った後は10倍の力で将来を切り拓くことができるようになる。それが人生というものなのです。

(参考:「致知」2023年7月号)

人事・労務について

管理職とは「部下の心理的安全性」を高めること

ビョートル・フェリクス・グジバチ

(プロノイア・グループ社長)

- 「管理職」とは何を管理する人なのだろうか。部下やメンバーなどの「人を管理する」というニュアンスが強いが、それは「人を“もの”として扱う」と同じように見える。マネージャーが果たすべき仕事は、メンバーが最高のパフォーマンスを発揮できるような環境を整えること。重要なのは管理ではなく、メンバーが目標達成できるように「支援」することだ。
- 自分の給料を上げるために会社に対して何らかの働きかけをしたことがあるだろうか。ないとしたら、給料が上がらないのは当たり前だ。給料は「物の値段」の1つなので、人任せでは上がらない。①交渉、②転職、③起業、④海外移住の4つの方法で自ら上げるしかない。①の給料交渉はどこ先進国でも普通に行われているグローバルスタンダードな行為だ。(デービッド・アトキンソン「小西美術工芸社社長」)

(参考:「週刊東洋経済」2023年4月22日号)

古典に学ぶ

すべてを受け入れる

- 仏教は基本的に、起こる出来事を受け入れていく考え方をとりますが、その中でも、特に密教は「大肯定」といっていいほど、徹底してすべてを受け入れていきます。
- どういうことかという、この宇宙すべて、生きとし生けるものはすべて、また、起こることはすべて肯定していくのです。当然、どんな出来事が起きても、どんな感情が生まれても否定せず、いったん受け止めます。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)